

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 28 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 西田 英高 職位：准教授

役 職：

I ティーaching・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

主に小動物臨床における教育、研究活動を行っている。主に、外科学、神経病学を担当し、犬・猫における獣医外科学、神経病学の病態、疫学、診断、及び治療に関して、授業及び実習を行っている。卒業論文は、小動物臨床研究室の学生を指導していく。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
獣医外科学	獣医学科	必須	4 年	140
基礎・小動物獣医総合臨床 I	獣医学科	必須	4 年	140
小動物獣医総合臨床 I	獣医学科	必須	5 年	140
小動物臨床実習	獣医学科	必須	5 年	140
獣医総合臨床実習	獣医学科	必須	5 年	140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6 年	5-10
卒業論文	獣医学科	必須	6 年	3-5

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

これからの国際化社会、AI時代の中で、問題や課題を提案し、解決できる獣医師（研究者）として自身が活躍できる人材となるとともに、次世代の人材を育成したいと考えている。

臨床や研究の現場では、答えが簡単に見つからなかったり、答えのない問題や課題に多く遭遇する。そのような状況でも、自ら問題や課題を見つけ、解決できるような人材を育成したいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

- ✓ 実際の症例を基にして、臨床現場を意識した学びを行う
授業や実習などで学習したことが、実際の臨床につながるように、知識を丸暗記をするのではなく、考える力を育成する。
- ✓ 基礎的知識がなぜ必要かについて伝える
獣医学における解剖学、生理学、薬理学などの基礎知識は、病態、診断、治療を理解する上で、非常に重要である。これらの知識を土台に、臨床獣医学を実践できるように心がける。
- ✓ 自ら体験できる機会を作る
学んだ知識を活かせる機会をできるだけ与えるようにする。また、グループディスカッションなどを通して、お互いに伝えたり教え合える機会を設ける。
- ✓ 自ら問題を提起し、解決できる能力を身につける
診療、ゼミ、卒業研究などの活動を通して、教科書や論文などを自ら調べることを通して、考える力を身につける。週に1回はゼミを行い、活発に議論できる機会を設けて、自分の意見や考えを表現できるようにする。

アクティブラーニングについての取組

ゼミや卒業研究を通して、双方向に学べる機会を週に1回程度設ける。また、自ら実践や体験する機会を与えて、学生同士で学び、互いに成長できるように仕向ける。

ICT の教育への活用

授業などの動画を作成していく予定である。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

- ①教育（授業，実習）の創意工夫（B）
- ②学生の理解度の把握（B）
- ③学生の自学自習を促すための工夫（B）
- ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）
- ⑤双方向授業への工夫（B）

2023 年度は他の先生方の授業や実習方法について学ぶ機会をいただいた。神経病については学生が苦手意識を持つことが多いため、できる限り症例などの動画を用いて視覚的に理解しやすく、興味を持ってもらえるように工夫した。理解度を把握する方法として小テストを用いたが、授業で実施した内容については理解している印象があった。一方で、授業

の内容を基にした応用問題では正答率が低い印象があった。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

国家試験の過去5年分について獣医学及び神経病学について確認し、授業や小テストなどに反映した。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2023年度に赴任のため、対応できない。

②①の結果はどうでしたか。

2023年度に赴任のため、対応できない。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

将来、獣医師や研究者となるために大学で学習してきたことを、実践できる機会を設けるように心がける。また、実際に実践した後に、どのようにすればさらに向上するかについて、話し合ったり、互いに教え合えるような環境を作っていきたいと考えている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

2023年度に赴任のため、特になし。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

診療のために参加できないこともあるが、その場合には録画された動画を全て視聴している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的目標

理解度に差（幅）がある学生に対して、興味を持ってもらえる授業や実習を心がける。
また、授業で使用する教材をさらに充実させる。また、自ら問題提起し、解決できる能力を身につけるために、双方向に学ぶ機会を設けるように心がける。

長期的目標

これからの国際化社会、AI時代の中で、自ら考え、問題を提案、解決できる獣医師（研究者）を輩出する。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- ・ シラバス
- ・ F D 研修
- ・ 教材
- ・ 試験問題
- ・ 論文

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡